



女子バスケットボール部 顧問
美術科担当 教諭
大内 絵里さん

久々に見るみんなの笑顔 残された時間も前向きに

6月の中体連の大会に向けて、これから気持ちを高めていこうと張り切っていた矢先の出来事。今後試合はできるのか、3年生の引退はいつになるか、はっきり見通しが立たない日々の中、「こけしで思い出を作ろう」と部員に声を掛けました。久しぶりにはしゃぐ子どもたちの笑顔を見て、やってよかったと思いました。生徒たちには、逆境を乗り越えていく力を発揮することを期待しています。

こけしのおかげで
仲間的心が一つに
キャプテン
佐藤 愛華さん



今までずっと目標に掲げてきた大会。この日に向けて、一致団結してきたのに…とやるせない気持ちになりました。しかし、こけし作りを通じて、部員の思いが一つになり、前を向くきっかけになりました。今度はわたしたちが、こけしの力でたくさんの人へ元気と勇気を届けたいです。



思い出をくれた
こけしに感謝
副キャプテン
須田 真未さん

新型コロナウイルスの影響で、仲間と過ごす部活動の時間も最後の大会も失いました。現実を受け止めるのは悲しかったけれど、久しぶりにみんなでワイワイ話しながらこけし作りができて、元気がわきました。仲間との信頼と絆を一生の宝物として、これからも頑張りたいです。

こけし作りを通じて、生徒たちにいつもの明るい笑顔が戻ります



表情豊かなこけし。高さ13cm。つなげるとメッセージが現れます

こけしとの出会い
新型コロナウイルスの影響は、思わぬところに。感染拡大を考慮して、今年の県中学校体育連盟大会、県大会予選を兼ねた地区大会が中止となり、現在の中学3年生にとって、夢舞台が失われました。
この悲しいニュースに心痛めた、万正寺に工房を構える香村工芸の佐藤義光さん。「醸芳中卒業生の一人として、生徒たちの気持ちを思うと辛くて。こけしを通じて、何か力になれない

か」と中学校の門をたたきました。運動部の顧問、美術科担当の大内絵里先生の賛同のもと、女子バスケットボール部がこけしの絵付けに挑戦することになりました。
笑顔を取り戻す生徒たち
「せっかくだから、ユニホームを着ているこけしにしようよ」「全員で一つのメッセージを作るのはどうかな」。6月3日の放課後、部活動自粛のため静まり返る校舎に、元気な声が響き渡りました。生徒たちがア

アイデアを出し合い、世界にたった一つのこけしを制作。後ろ姿には「スポーツの力で、コロナを吹き飛ばせっ!」と、コロナと闘う人々への応援メッセージを刻みました。
絵付けが終わったこけしは、仕上げのため一旦工房へ。佐藤さんが心を込めてつやを出し、命を吹き込みました。このこけしを見て、いつか心から笑える日が来ますように、佐藤さんと生徒たちの思いが一つになって生まれたこけし。希望の連鎖が広がっていきます。

— Special Feature — こけしがつなぐ“絆”

大会中止、でも— こけしが心をつないだ

「まさか、大会がなくなるなんて—」。新型コロナウイルス感染症対策のため、県中体連の大会が中止に。集大成の舞台を失った醸芳中3年生が、最後の思い出づくりとして、こけし絵付けに挑戦。「辛いのは自分たちだけじゃない。全国の中学生やコロナで苦しむ人も、きっと今同じ思いでいるはず」。絶望から立ち上がり、こけしでエールを届けます。



こけしので、全国へエールを発信したい

生徒たちの作品を見て、「なんてすばらしいアイデアなんだ」と思いました。誰一人欠けてもならない、ワンチームの作品です。一生懸命心を込めて作ってくれたこけしを見て、わたし自身も元気ももらいました。

今、朝の連続テレビ小説で、福島県を舞台にした「エール」が放送されています。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、大会がなくなって悲しんでいる学生や、最前線で戦っている医療従事者など、

困難に立ち向かう全国の皆さんに、このこけしを通じて、希望をもってもらえたらと願っています。

今後、このこけしは、JR福島駅構内にある観光協会や福島県観光物産館「コラッセふくしま」に展示する予定です。県内外の多くの皆さんに、こけしを見て元気になってほしいと思います。

こけしは油性ペンがあれば、誰でも作れます。ぜひあなたもこけしに思いを乗せて、大切な人にエールを送りませんか。

Interview



香村工芸
佐藤 義光さん